
●第8回オスマン文書セミナーのご案内

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（AA研）では、基幹研究「中東・イスラーム圏における人間移動と多元的社会編成」（代表 黒木英充）の事業の一環として、2016年1月9日（土）と10日（日）に第8回オスマン文書セミナーを開催します。研究上、オスマン朝下で作成されたさまざまな手書きの文書や帳簿を読む必要のある方を中心に、広くイスラーム史を研究される方のご参加をお待ちしております。ただしオスマン・トルコ語の授業を行う場では決してありませんのでご注意ください。また、本セミナーはNIHUプログラム・イスラーム地域研究東洋文庫拠点との共催となります。

今年度も2012年度より引き続き、千葉大学の秋葉先生を講師にお迎えします。今回は昨年度に引き続いて、嘆願書（arzuhal）を講読するほか、初心に帰って第1回のセミナーでも少し扱ったオスマン朝の上奏文書の一類型であるイラーデ（iradeあるいはirade-i seniyye：勅旨）を取り上げます。第1回では、上奏文書としての大宰相のテルヒース（telhis）と君主のハットウ・ヒュマーユーン（hatt-ı hümayun：宸筆）が説明の中心でしたが、今回講読するイラーデは19世紀前半に新たに登場した文書類型です。今回もこれまでと同様、事前にお配りしたコピーを用いて具体的な実例を演習形式で読解していきます。

今年度の第1日目は、最初にイラーデ及び前史としてのテルヒースとハットウ・ヒュマーユーンについて講師が一般的な解説をおこない、つづいて実例を講読します。実例は、19世紀前半の初期のイラーデから選ばれる予定です。

第2日目はイラーデの講読に続いて、18世紀の嘆願書の実例を講読します。昨年度は嘆願書の提出を受けた後、官僚機構でどのような処理が行なわれたかについてはあまり踏み込めませんでした。今回は異なるパターンの処理を受けた実例を講読していきたいと考えています。

なおセミナーへの参加資格として、例年通り次の1.または2.のいずれかにあてはまることを条件といたします。

1. 「現代トルコ語の読解力があり、かつアラビア文字に関する知識を有する」
2. 「ペルシア語あるいはアラビア語の読解力があり、かつ現代トルコ語文法の知識を有する」

参加を希望される方は、お名前、ご所属、連絡先住所・電話番号、メールアドレス、専門分野、セミナー参加可能日程を明記の上（部分参加も可）、下記の申込先まで12月9日(水)までにEメールにてご連絡ください。こちらから、セミナーで用いる資料を郵送いたします。なお参加費は無料です。

また、東京近郊以外に在住の方には旅費の支出も検討しておりますが、予算の都合上、旅費支給を希望される方は、なるべく早くその旨お知らせください。

問合わせ・申込先：

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 フィールドサイエンス研究企画センター事務局

e-mail: fsc_office@aa.tufs.ac.jp (@は半角)

プログラム等の詳細は以下の通りです。

基幹研究「中東・イスラーム圏における人間移動と多元的社会編成」
第8回オスマン文書セミナー

◇主催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

◇共催：NIHUプログラム・イスラーム地域研究東洋文庫拠点

◇期間：2016年1月9日(土)～10日(日)

◇会場：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
3階大会議室(303号室) 1月9日(土)、10日(日)とも
(〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1)

<http://www.tufs.ac.jp/access/>

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/about/access>

◇講師 秋葉淳 (千葉大学文学部)
高松洋一 (AA研)

◇プログラム

1月9日(土)

14:00-14:15 趣旨説明 講師・自己紹介

14:20-16:00 イラーデおよびハットウ・ヒュマーユーンの解説 (担当：秋葉、高松)

16:20-18:00 イラーデの講読 (担当：秋葉)

1月10日(日)

10:30-12:10 イラーデの講読 (担当：秋葉)

13:00-14:40 嘆願書の解説と講読 (担当：高松)

15:00-16:40 嘆願書の講読 (担当：高松)

17:00-18:00 総合討論